

農林業の魅力を再発見

11月7日、智頭農林業いきいき交流まつり
& 智頭農林高校農林祭 1,800人で賑わう

まちの農林業に活気を呼び戻そうと、森林組合や木材協会、石谷林業、JAなど、町内の農林業団体を中心に、農林業の魅力を感じてくれる智頭農林業いきいき交流まつりが、智頭農林高校を開場に開催され、高校生が栽培した新鮮野菜には、早朝から長蛇の列ができました。

また、森林浴による癒し効果を確かめる森林セラピー体験では、紅葉に染まった芦津溪谷を散策。血圧やストレスホルモン、心理ストレスを測り、癒し効果を実感しました。

会場内では、間伐材の積み木の高さを競う「ちづギネス」や、木材チップのプールから宝物を探す「ちびっこ宝探し」な



ちづギネス



優勝の藤森さん

一方、今年初めて行われた智頭の旨いご飯ナンバーワン決定戦では、予選を勝ち抜いた上位5名のお米を会場で炊き、米の専門家ら5名が審査。藤森英之さん（口宇波）が育てたコシヒカリが「今年の智頭で最も旨い米」に決まりました。優勝した藤森さんには、賞品として炊飯器と、「鳥取市内スーパーとの販売契約権」が贈呈されました。このコンテストは来年も企画しますので、参加を希望される人は、今から土づくりに取り組んでみてはいかがでしょうか。

沖ノ山天然杉の植林イベントを実施

― 芦津財産区 ―

10月3日（日）に、芦津財産区有林の皆伐跡地（約0.5ヘクタール）で沖ノ山天然杉の植林イベントを実施しました。

芦津集落から42名のほか、鳥取環境大学や鳥取大学の学生、NPO法人因幡の山と里、おんな山師集団、森のようちえんまるたんぼつ、また、県外（広島県、宝塚市など）からも参加をいただき、総勢90名で約1500本の



天然杉から育てた赤挿苗の植栽作業を行いました。愛着を持つてスギの生育状況を見守っていただきたいことから、植栽した苗木には植えた人の名札を付けました。作業は一時間ほどで終わり、どんぐりの館に移動し、みなさんでセラピー弁当を食べ、意見交換会を行いました。参加者からは「間伐はいつするのですか?」、「植えた木を見に行ってもいいですか?」など、活発な意見や質問が相次ぎました。

みなさんの力をお借りして植えた沖ノ山杉が、すくすくと立派に育つことを願っています。

共生の森林活動

〜 まつぎん希望の森・J.Tの森 〜

10月16日（土）、駒帰地内の「まつぎん希望の森智頭」で、山陰合同銀行の職員及びその家族の皆さん約100名による森林保全活動が実施されました。

今回の活動では、クヌギの苗木300本の植栽、今までに植栽を行ってきた森の下草刈り、さらに間伐した木材の搬出を行い、秋晴れの元、心地よい汗を流しました。

一方、10月30日（土）、慶所地内の「J.Tの森智頭」でも、J.Tグループの社員及びその家族、地元関係者など約140名が参加し森林保全活動が行われました。



7回目の今回は、下草刈り、作業道の水切板の設置などが行われ、深まりゆく秋の気配を感じながら、それぞれ作業でたつぷりと汗を流しました。作業の後の昼食は、恒例の地元「あじさいけい・ジョーグループ」の皆さんが準備された地元食材たっぷりの温かい「イモ汁」や地元産「コシヒカリ」を使った「新米おにぎり」がふるまわれました。

午後からは、慶所集落のみなさんの指導の下、「しめ縄づくり」を実施し、お土産に、昨年植菌した椎茸のほだ木を持ち帰りました。



智頭の森と村日記③

丹羽 健司

木の

宿場プロジェクト①

10月16日朝。会場に着くと綾木委員長はじめ、岡田さん、大谷さん、山本さんそれにNHKの取材クルーが準備にかかっていた。

軽トラ一番乗りは三輪さん。荷台には1m近くの丸太がたくさん積んである。「すぐそこが山だから今朝切ってきた。まだ時間があるならもう一度取りに行きたいとかで、荷降ろしを手伝った。とてもお元氣な82歳。空の軽トラをすっ飛ばして山へ



戻って行った。それを皮きりに続々と集まる軽トラの群れ、どこからか行進曲が聴こえてくるようだった。

11時、開会式。綾木委員長が万感の思いを述べ、藤田さんが海からのエールを送り、寺谷町長が山と商店の連携を讀めた。次は私の出陣の掛け声の番。

今この瞬間のために私は鳥取まで来たんだと思った。身震いをこらえて言った。「私たちは今歴史的な瞬間に立ち会っている。この軽トラの行列が、閉塞した山村の未来、日本の未来を変える。この木の宿場が日本の森林と山村の再生の原点になる。智頭の森が日本の希望の森に変わる。」声が上ずった。「智頭の森を元気にするぞあー（おー）、日本の村を元気にするぞあー（おー）（おー）軽トラとチェーンソーで晩酌するぞあー（おー）。ガンバロー、ガンバロー！ガンバローー！」みんなの声が青空に響き、心が一つになった。

ちよっとやりすぎた（笑）。テープカットならぬ、のこぎりでのウッドカット、大谷さんや



岡田さんの苦心の作だ。切った木が足に落っこちてきて痛かった。圧巻は23台の軽トラが来賓の議員さんやスタッフの拍手に迎えられて次々に入場し、それぞれの荷降ろし場に向かう。まるで新郎新婦の入場みたいだ。荷降ろし場のそこでNHKテレビや新聞記者の取材が始まっている。

ホームラン

10月22日夜。家中先生から電話。「今NHKテレビ見たよ。丹羽さんは今名古屋で見られないだろうから電話した。玉木さんも皓ちゃんも声高さんもとっても良かった。ここまで来たんだよね、僕らやってよかったよね、涙が出そうだよ。」ほんとには涙が出ているんだ、きつと。そして今頃、綾木さんらもそつに違いない。

美しい村

百人委員会が昨年から準備してきた木の宿場プロジェクト。



この幟のあるお店で杉小判が使えます

はじめからあったわけではない。美しく暮らすという村人がいて、美しい村になるのである。